

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

17

第四幕 第4場

モンセラットを目指しての道すがら

登場人物： 巡礼者 イニゴ・デ・ロヨラ

黒い使い イニゴを悪(殺人の罪)へと誘う声

光の天使 イニゴに神の望み、マリアの心を示す声

ラバ イニゴを導く神の道具

【語り】 モンセラットへの道すがら、イニゴは一人のムーア人と聖母マリアについて議論する中で、マリアが侮辱されたように感じた。騎士として、自分が仕える女王であるマリアの名誉を何とかして守ろうと努めたが果たせず、かのムーア人は先を急ぎ見えなくなってしまった。イニゴはマリアの名誉を取り戻すために、自分が何をすべきかと思い悩み、その心は千々に乱れるのであった。

イニゴ：聖母マリアの名誉のため、私は何をしたらいいのだ？

黒い使い： ♪イニゴよイニゴ 臆病者
なすべきことは 決めてらあ
あのムーア人を 追いかけて
その短剣で ひと思いに！

イニゴ：やはりそこまですべきなのか？

光の天使： ♪ああイニゴ イエスの母が

血に飢えた 狼の如^{ごと}

人の子の 命を求め

報復を 命じ給うや？

イニゴ：愛のみ母が、わたしに殺人を強いられることがあろうか？

といっても、このまま奴を見過ごしていいものか？

黒い使い： ♪ パンプローナの^{つわもの}強者よ 今こそ腕の見せどころ

マリアの名誉 取り戻せ
殺せ殺せ マリアの敵を

光の天使： ♪ 汝が^な聖母の^{はは} 優しきころ

^{いのちめ}命愛でる 母心をば

思い起こし 心静めよ
赦しこそ マリアの望み

イニゴ： ああ、誰か教えてくれ！私のとるべき道を。

(ラバに乗ったまま、両手で頭をかかえこむ。……や々あって……)

ラバよ、お前が教えてくれるか？お前が行くにまかせるよ。

お前があの方かれ道を町のほうに行くならムーア人を探し出して打つ。

この道を真直ぐ行くならあいつに構わず先を急ごう。

【語り】 迷いに迷ったイニゴは、ついにラバに自分の行くべき道を選ばせることにした。すると不思議なことにラバは町へと向かう広い道に入らず、より細い淋しい道を進んで行った。動物の習性に従えば人の住む街に通じる広い道をとるのが普通なのに、この時ばかりはラバはその反対を選んだのである。イニゴはのちにこの出来事をふり返り、神がラバを使ってイニゴ(と、ムーア人)を救ってくださったと受けとめ感謝している。